東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2005年6月24日

貞操について

ムスリムの皆様。アーデムとハッヴァは、この世界に、人類の血統への責任を負ってもたらされてきました。もし、結婚という習慣を、均衡の取れた形で彼らがスタートさせていなければ、人類は絶えてしまっていたことでしょう。

ムスリムの皆様。グローバル化は、社会を覆ってしまう危険な病気を世界に広げています。近年、結婚が離婚という結末を迎えることがとても増えてきています。肉体が、何の責任も問われずに見世物にされ、人々の注意が体に集中します。性に関するものが安易に利用されないよう、肉体はいやな外見を持って創造されなければいけなかったというのでしょうか。

若者は、人生の最初の一歩を踏み出したばかりのところで、足をすくわれます。性的な喜びは、夫婦が家族のために自己をささげることに耐えられるよう、お互いに助け合い、子供たちを育てるようにと勧める、神の恵みなのです。この喜びがどこからもたらされるのか、どのように脳に与えられているのか考えない人々が、性の氾濫におぼれているのです。喜びもかき消され、また彼ら自身の生活も台無しになってしまっています。統計によれば、世界中で発生する殺人事件の３分の２は性的な原因によって起こっています。性をコントロールできない者は、殺人事件で死ぬことがなかったとしても、病気になって死んでいっています。

性の氾濫は本来、不愉快で不快なものです。規則や禁止事項とは無縁に生きているような動物たちでさえ、性という宝を手当たり次第に、無秩序に用いることはありません。

この世界における喜びは、決して、満ちたりるために与えられたものではありません。天国に到達するまで、人は決して満ちたりることはありません。結婚生活というものが好ましいものであるのと同じくらいの重さで、性生活が結婚生活の外にあふれ出すことはよくないことです。短期間の、無責任な同棲、同伴が行なわれる社会は、重い代償をはらうことになります。人々は、腐っていく運命にある肉体ではなく、魂に熱愛の情を抱かなければならないのです。物質的な性は、一分後にはいやなものとなりますが、精神的な性は永遠に安らぎを与えるものとなります。異性に気が惹かれることは、人間の本質としてあるものです。しかし現在においては特にそれがあおりたてられているのです。幸福は、この関心が、ふさわしい時に、正しい方法で応じられることによって成り立つのです。

「若者よ、あなたは泥から練られた、血や膿からなる肉体を求めているのではない。あなたは、創造主がその肉体に与えた形状の後ろにある、魂を愛しているのだ。」

メヴラーナ・ルーミは語っています。「土と混ざったほんの一口の美というワインがあなたをとりこにしている。混ざっていなかったとしたら、どうなっただろうか。」「あなたの創造主は、土から創られた肉体に、光によって形を与えられた。」「食べたいと思っている果実を、許しを得ずに盗んで、創造主に対抗してはならない。」「彼はとても気前のよいお方である。忍耐深く求めていれば、ふさわしい時に、どのようなハラールがあなたに与えられるか見てみなさい。穢れた若者時代をすごせば、将来、清らかで高潔な美と出会うことはない」

ここで言おうとしていることは、「魂を取り出して捨てなさい。腕や足を切りなさい。」というくらいに難しいことかもしれません。しかし、若い時代に「神の基準では禁止とされている」関係を結んでしまうと、誠実な配偶者を見つける可能性が低くなるのです。アッラーは清らかな人を、穢れた人には与えられないのです。心から、そして涙を流しながら悔悟を行う人を除いて。

ムスリムの皆様。用心深い人は、毒の入ったハチミツを口にしません。えさの向こうにある釣り糸に気がつきます。将来の配偶者にふさわしくないと見なしている事項は、今日、自分にとっても醜悪なことであると見なすのです。

だから、私たちの目を挑発的なものから、私たちの意識をその種の空想から清め、ドゥアーや悔悟でくるみ、家族の品位落とすあらゆる罠を避けないといけません。創造主に近づくため、理想を追うためにあなたが努めるなら、それは性的な欲求を覆い、忘れさせるものとなるでしょう。もし結婚できる状態にあるのなら、それを先延ばしにしてはいけません。結婚という避難所に助けを求めて入るべきなのです。

よい結婚がどうしても実現しない人も、あせってはいけません。私たちは、この世界の刹那的な快楽ではなく、無限の幸福を求めているのです。人間としての悩みを抱えて生きる人には、性的な悩みなどはもはや残らないのです。